



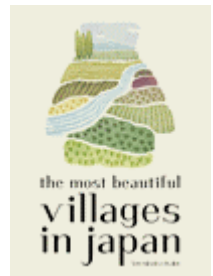
持続可能な地球環境を次世代に

資源循環型社会を実践する消費者の情報紙

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク 〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-17-11 スペース[エコロジーラボ] D-1  
郵便振替 00920-8-154437 年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)  
TEL06-6462-2775 <http://www.geocities.jp/gconosaka/> [gcon-osaka@mail.goo.ne.jp](mailto:gcon-osaka@mail.goo.ne.jp)

## 小さくて 美しい 徳島県上勝町

### 高齢者のいきがいを持続可能なまちづくりのエネルギーに変えた



昨年の12月17、18日に「ごみの34分別」や「葉っぱビジネス」で注目を浴びている徳島県の上勝町<sup>かみかつちょう</sup>を見学するグリーンコンシューマー企画のエコツアーに参加しました。最初に訪れたのは町内に一か所のごみ・資源集積所である「日比ヶ谷<sup>ひひがたに</sup>ごみステーション」でした。上勝町にはごみの収集車も焼却炉もありません。生ごみ以外のごみは、このごみステーションに各自が持ち込み、34種類分別表に従って分別します。ごみステーションは年末年始を除き土日祝も毎日、午前7時30分から午後2時まで受け入れてくれますので、都合のいい時に持ち込むことができます。

分別が分からない場合は、有償ボランティアの方が分別のお手伝いをしてくれます。このごみステーションに持ち込まれたごみの80%以上が再資源化されているのです。

生ごみは、各家庭の畑で肥料になったり、購入補助金で各家庭に設置された生ごみ処理機で堆肥にされ活用されています。ごみステーションにも設置されていますので、各自持ち込んで処理できます。(生ごみ処理機の自己負担額は1万円)。さらに、車を持たない高齢者や障がい者などの収集支援対象者は2カ月に1回、個別収集をしてくれます。このように、複数の選択肢を設けて、住民全員参加で「もったいない」を実践している姿に大いに感心し、わが吹田市での活動の励みになりました。

(土肥 将嗣)



間伐・木切れで薪ストーブ  
ほっこりと癒されます



2020年までにゼロウエスト宣言!  
くるくる工房「上勝ばあちゃん手作り雑  
貨店」NPO ゼロウエストの事務所と併設

## 日本の棚田百選に選ばれた 榎原の棚田で想う

上勝町の地域おこしは、高齢者の方々が元気に仕事に参加していることに感動しました。その中で榎原の棚田に行くには、狭い山道を登って行きますが、道中には多くの放置耕作地があり、さびしい気持ちになりました。私が育った田舎を思い出し川、水、水車小屋などが思い出されました。棚田は、日の光できらきらと輝いていました。

昭和21年敗戦後、食糧不足を経て高度経済成長へと農村から都会へと人が流れ日本の姿は変わってきました。自身もセールスエンジニアとして仕事をしていましたが、ふっと育った田舎の景色が出てきます。棚田を見て、どれだけ前に田んぼが作られ、多くの人が米づくりをしてきたのだらうと思いを馳せています。山間の棚田での耕作は効率も悪くきつい仕事なのに、思うような収入は得られず、都会へと働きにでてしまった。今、ようやく食糧自給率の低下が問題視され、帰農や農業を新しい仕事としたい人たちも増えてきています。農地を大切にするオーナー

制度もあります。上勝町には大きなビジョンが住民の中で根付いている見ました。それはどん底から立ち上がって今の農業があり、次の大きな生きる目的があると思っています。

私たち夫婦は、放棄35年の土地を少しずつ再開墾して15年、野菜をつくっています。結婚当時、御所市朝町一帯は、大根の一大産地で、小さな朝町川には、6~7月には蛍が飛び交っていました。が、経済成長とともに人間の欲望も膨れ上がり自然環境が破壊され、蛍が消えてしまいました。

今、朝町川に蛍が見られるように、カワニナやメダカ、ドジョウなど飼っています。結婚50周年を迎え、社会に役立つことを探そう！（ゆにふぁーむ 村田恵子・二六年）



榎原の棚田と水車 現役で動く  
バイオメタン 室内ではコンロの熱源実験中



鯉のぼりの羽織だ！



月の湯温泉は冷泉のため、間伐材のバイオガスで沸かし、室内暖房にも活用



料理には地元のもみじが鮮やかに料理を彩る



## もう一度出番を！！

一度は行ってみたいと思っていた上勝町。車から降りたとたん「すごい」「すごい」の連発です。「くるくる工房」と称して、使われなくなった物をもう一度おばあちゃんたちの手で作り変えてまた、誰かのもとで使われる物になっていく。とりわけ「こいのぼり」を使って、バッグやはんてん、チャンチャンコ、布ぞうりと余すところなく使い切り、出来あがったものは商品として結構な値段でならんでいる！まいった1まいった！！



鯉のぼりで作ったバッグ！存在感あり



3年待ったんよ。このミシンを踏むのにと笑顔で答えてくれた。

私としてアドバイスするなら徳島県なんだからハデハデこいのぼりに藍をくぐらせればもっとうけるかも・・・。

隣の建物には市民が持ち込んだ「もらってください」コーナーがあり、セーターをもらって帰り、鍋帽子（保温熱で調理時間を短縮する優れもの）、レッグウォーマー、帽子のポシェットを作った。我が交野市にも「くるくる工房」を作ってほしいと要望しているが・・・。

もうひと押ししてから引退しようと思っています。

（坂本 茂代）

## “葉っぱビジネス”でお年寄りも生涯現役

上勝町を一躍有名にした“葉っぱビジネス”は、上勝町の自然で育ったもみじや南天、イチヨウなど、様々な植物の“葉っぱ”を料亭などで使ってもらう商売。昭和61年にスタートし市場に出荷している。生産者の平均年齢は70歳、上勝町870軒のうち194軒が生産者だ。上勝町は以前はミカンの町であった。しかし30年ほど前の寒波でミカンが全滅。

その後、当時の町長さんにスカウトされた農協職員・横石知二さんの“ヒラメキ”と“努力”で町民の理解を得、いまや89歳のおばちゃんがパソコンを使いこなす。

“葉っぱビジネス”は、その日に合った物を出荷するスピードがいのちだが、その作業はていねいで商品は洗練されていなければならない。そして運営は、JAのおばあちゃんにも分かる情報発信の仕方、株式会社いどりの営業力、苗木購買時の役場の支援など、三者が一体となり、お年寄りに空振りさせないのだ。上勝町の“葉っぱビジネス”は、ビジネスを越え町の元気とやる気を作り出している。

（大林 輝）



出荷前の取れたてピカピカ添え物葉っぱ